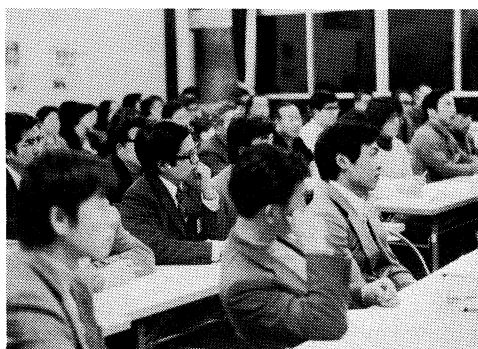


新しい時代を開く青少年に期待して

郡山市教育委員会



青年団の研修風景

真に人間形成が教育の根源とされるならば、それに即応した教育の実践がなければならぬ。

知育偏重の教育から、価値の多様化に即して「ゆかしく」「ゆたかで」「ゆるがない」生活の信条を堅持することのできる人間教育が必要である。

特に青少年教育は青少年の体内にみながるパワーと、英知、自信、忍耐、根気を養成することが肝要である。

当教育委員会は、「本市青年団体の育成方策について」を、昭和四十九年六月十九日社会教育委員会に諮問し、昭和五十年三月二十八日首題の答申を得た。答申原文はスペースの関係で記述できないので要点をまとめたが、広く関係者の問題提起となれば、幸いである。

一、本市青年団の現状と問題点
科学技術の急速な進歩は情報化社会を生み、大量生産・大量消費の時代となり、青年の生活に大きな変化をもたらした。①農業構造の変化と都市化現象②社会連帯感の欠如と価値観の変化が現状として起こった。

(一) 青年団の問題
① 二十二〜二十三歳が中心、リーダーを一年務めると退団が多い。
② 役員は任期を大過なく過し、団活動を団員のものにしていく熱意に乏しい。

(3) 団活動への参加率が低く、一部の役員が企画した事業が多い。
(4) 女性団員の活動期間が短いため、男女の数の比率は五対一である。
(5) 市青協と単位組織が遊離している。
(6) 就農青年が少なく、サラリーマン化し、地域の連帯性に欠ける。

(1) 親の無理解と大人の側にボランティア精神の欠如が見られる。
(2) 青年団と他の青年組織との連携が不十分、あわせて青年団出身者との団活動の積み上げがない。

(3) 青年たちのエネルギーを発散させることのできる施設が少ない。
(4) 公民館など社会教育施設の利用時間の延長困難。気軽に利用し、研修をする宿泊施設がない。

(5) 地域における青年団の役割についての自覚が弱い。
(6) 教育行政以外の行政（総理府、厚

生省など）が進めている青年対策の組織がバラバラである。
(三) 学校教育の面からの問題点

(1) 青少年活動への方向づけがない。
(2) 高校段階での奉仕活動が地域と密着せず、青少年活動とのつながりがない。
等々の問題点が浮き彫りにされ、これらに関する対策が急務であるとして次の点を要望している。

二、今後の方向と育成方策
(一) 郡山市の青年像（四項目…省略）
(二) 青年団の性格…中正不変・協同奉仕
(三) 青年団の組織…地域青年組織、職域集団、グループ、サークル糾合
(四) 青年団の年齢 十五〜三十歳
(五) 青年団の役割…協同運動の中核体

三、育成方策
(一) 行政の立場
(1) 施設の整備…青少年会館の建設、公民館等の充実、学校施設の開放、体育施設、市民運動場の増設、青年の森（野外研修場）の造成
(2) 指導体制の整備…有志指導者の発掘、青少年団体育成指導員の設置、指導研修に財政的措置
(3) 教育行政体制の刷新充実…職員員の増強、予算の確保、施設の充実の再検討

(二) 青年団体の立場…意識高揚、指導者の養成、役割分担、地域課題に取り組む。
(三) 総合調整…行政分野に関する青年の事業を統合的に調整する。